

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1149 2015年12月号

国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催

11月12日、四国森林管理局において「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」を開催しました。 【詳細は2頁】



国有林野等所在市町村長連絡協議会

(左側：川端国有林野部長、右側：国有林所在市町村長代表世話人の皆様)



四国国有林野等所在市町村
長連絡協議会



一月二日、四国森林
管理局において「四国国有
林野等所在市町村長連絡協
議会」を開催しました。
本協議会は、地域社会と



国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催

た。
市町村長から出た、主な
意見・提言等は次のとおり
です。

○ 鳥獣害対策での連携を
お願いしたい。最近ハシ
カだけでなくサル被害
も深刻化している。

○ 安全面の指導を踏まえ
た人材育成の取組の推進
に協力願いたい。

○ 高齢化により架線集材
の技術を有する者が減小
してきており、技術の継
承が課題。

○ 国有林林道の民有林と
一体的な計画、整備をお
願いたい。

の有志協議会の代表世話人
である市町村長、大山局長
をはじめとする局幹部、そ
して、林野庁から川端国有
林野部長、川浪技術開発推
進室長が出席し、協議会会
長である上治馬路村長の議
事進行により、今年度の
テーマである「森林・林業
と地方創生への取組」につ
いて、意見交換を行いました
理局としても、これらを踏

治山工事現場にて(二年生)



まえ、より一層公益重視、
有林の管理経営に取り組ん
た。
民衆連携を推進し、「国民
の森林」として相応しい国
でいきます。



当森林管理局では、高知
県立高知農業高等学校森林
総合科の全学年を対象にし
て実施しており、一年生
二二名は一月二六日に千
本山登山、二年生一八名は
一〇月九日に、高知中部森
林管理署管内で治山工事
を、三年生二〇名は一〇月
二二日に同じく高知中部森
林管理署管内で林道工事の
現場実習を実施しました。

この森林環境教育は、森
林総合科のカリキュラムと
して実施しており、一年生
二二名は一月二六日に千
本山登山、二年生一八名は
一〇月九日に、高知中部森
林管理署管内で治山工事
を、三年生二〇名は一〇月
二二日に同じく高知中部森
林管理署管内で林道工事の
現場実習を実施しました。
治山工事では、「治山の

林道工事現場にて(三年生)



森」で治山事業の概要を学習した後、治山ダムや山腹工事の現場へ移動して工事の実施状況を見学しました。今年は特に、集水井工(井戸)の見学もすることができました。生徒達は、工事の規模などに驚いた様子で、熱心にメモをとっていました。

また、林道工事では、災害復旧工事の施工について学習しました。残念ながら、授業で学習中の新設工事ではなかったのですが、現場工事担当者から、施工の技術面について詳しい説明を受け、生徒達も真剣に聞き入っていました。

また、すでに林業関係に就職が内定している生徒からは、「集材架線と森林作業道を作設して行なう場合、集材作業の作業効率は、どちらがいいのか。」などの専門的な質問を受けました。

両工事とも、授業での図面や写真だけでは異なり、普段、見る機会の少ない現場や、施設、工器具に触れることができ、生徒達は終始興味津々で、現場の大変さも痛感したようでした。

た。

今後とも、当森林管理局では、林業を専門に学んで

いる高校生の学習支援に取り組んでいきます。



一〇月三十一日、一般公募により参加いただいた方々

二〇名による室戸市の佐喜浜躍動天然杉郷土の森を訪ねるツアーを行いました。

今回のツアーは、室戸市が世界ジオパークとして認定され、このエリアも注目

されています。また、東部博で地域が盛り上がりつつある中、天然杉の巨木が群生している中を散策しながら、地元の文化や歴史を感じてもらおうと、四国仰山

会と共催により、開催したものです。参加者は、先頭を登る案内人の冗談を交えた樹木等の説明に笑いが絶えることなく、また、ユニークな姿で勇ましくそびえている巨木の杉たちに時の流れを感じ、しばらく立ち止まって見上げていました。途中には滅多に見られない『ヒロハノミミズバイ』の花を見ることができました。

また、登山コースの歩道

この変形木は、凄いな(天然杉)



も整備されていて登りやすいと参加者からも大変好評でした。

当日は、土曜日開催ということで、小中学生を含む親子二組の家族の参加がありました。

現地まで片道三時間を超える遠距離移動で、また、道幅が狭く、三台に分乗してのツアーとなりましたが、巨木杉のパワーのせ

いか、参加者は、終始疲れた。

を見せることなく、帰りの車中では、早くも来年のツアーはどこへ行くかという話などで盛り上がりまし

森林ふれあい推進事業

く千本山と森林鉄道遺産を訪ねてく



一月七日、日本森林林業振興会との共催により、高知県馬路村において、「魚梁瀬千本山と森林鉄道遺産を訪ねるツアー」を開催しました。

当日は、公募による二名が、「馬路村公認むらの案内人クラブ」の清岡さんの案内の下、ツアーに参加しました。

うことで、親子で参加された方もいました。バスの中では「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」が作成したビデオを見て、事前に森林鉄道の歴史について学びながら、最初の目的地に向かいました。

森林鉄道乗車体験
(魚梁瀬丸山公園)



て詳しい説明を受け、建設に携わった人々の苦労や森林鉄道が走っていた時代の村の繁栄に思いをはせていました。また、魚梁瀬ダム展望台でも説明を聞きながら見学しました。

それぞれの目的地に向かう車中では、案内人のユーモアを交えた、馬路村の今昔や森林・林業の歴史など

の大変貴重なお話により、笑いが絶えず退屈する暇がない時間となりました。

魚梁瀬の丸山公園では、復元された森林鉄道に体験乗車し、童心に返るとともに、当時の生活を感じるこ

とが出来ました。その後、馬路村ならではのユズやアメゴといった山の幸満載の弁当でお腹を満たしました。

千本山森林内散策
(雨もまた良し)



たヤナセスギとのふれあいで、パワーをもらい、「このように雨が多いからこそ立派な杉に成長するんだ。」と納得いただけただけようでした。

また、深山溪谷の素晴らしい美しい紅葉を楽しめ、雨の憂鬱を吹き飛ばしてくれました。

マスリース作りを楽しみまわした地面に感動した。」

参加者からは、「登山が
できず残念だったが、雨の
千本も良かった。」「ふわふ



第一〇回「いの町太陽が育む森」交流活動が、高知県いの町と太陽石油株式会社で森林整備の協定を結んでいる、いの町野清水にある「交流の森」で一月一四日に開催され、太陽石油グループの社員と家族やOB約五〇名が参加しました。
この交流活動は、太陽石油株式会社が総合エネルギーというところで、木工教室

を当森林管理局に実施して欲しいとの依頼がいの町からありました。

当日は、生憎の雨で間伐作業とトレッキングは中止となりましたが、開会式の後、バウムクーヘン作り・木工教室を森林生態学修館で実施しました。

森林教室には、二五名の父兄が参加し、最初に一〇



講義する森田課長補佐

木工教室の様子



耳を傾ける親子など楽しく学習ができました。全体的には、少し難しかったのですがその中でも全問正解者が一名いました。

木工教室では、「箸置き」作りに二組、「クリスマスドアノブ」作りに四組が挑戦しました。「箸置き」は予めキットを用意しそれを組立てる作業で比較的簡単に出来上がっていました。が、箸の先を削るのに使い慣れないナイフを駆使して世界で一つしかない「マイ箸」作りを楽しみました。

愛媛県からの参加者が多数を占める中、クイズでは高知県の森林率は？の問いに天井を見上げる父兄、本当にある木では、ショウベシノキに大爆笑、また、森林の働きの説明では熱心にとが出来ました。

それぞれ出来上がった親子には、記念カードや来年のカレンダー（森林鉄道）をプレゼントしました。その後木工作业が終わった児童たちは、順次ビンゴゲームでゲームを楽しみ、ジーゼミやケロケロカエルをゲットしました。

最後に閉会式でいの町の



日下小学校の森林教室

一〇月三〇日、当森林管理局研修室において、高知県日高村立日下小学校の四年生に森林教室を行いました。

この森林学習は、学年担当の先生から、『色々な企

課長が挨拶をしている間もセミやカエルの音で挨拶が聞こえないほどでした。

全体としては、予定していた時間通りに進み、前回の教室で用いた指導方法を試すことが出来まずまずの森林木工教室になったのではないかと考えています。

業に行って学習する。」の一環として森林管理局で森林の授業をしてもらえないか。』という要請により開催したものです。

当日は、最初に日下小学校周辺の川について、クイ

ズ形式で、「みにみにクイズ」を行いました。

次に、樹木学習として、ホワイトボードで広葉樹と針葉樹について説明した後、二人一組になって針葉樹七種類、広葉樹五種類を分別してもらいました。どの児童も真剣に一枝一枝



樹木学習

じっくり観察し、手触りを確かめ、匂いを嗅いで、時間をかけて考えてもらいました。やはり、「ナギ」は広葉樹（葉が広いため）、「ヒイラギ」は針葉樹（葉の先が尖っているため）と大半の児童が間違い、「ナギ」は葉は広いけど針葉樹なんだよ。と説明すると驚きの声があがっていました。

また、「タラヨウ」の葉に日付と自分の名前を書かせ、別名「ふみの木」といって、手紙がわりにしていたことを説明すると、まともや驚きの声があがりました。

最後に「森林のはたらき」について、プロジェクターを用いて学習しました。口頭で説明し、ホワイトボー

森林の働き



ドに「緑のダム・食物連鎖・光合成・木材・山崩れ防ぐ」などと重要なキーワードを書いて残していききました。全児童が最初から熱心によくメモをとっていたので、それらもきちんと書いてくれました。

最後に、児童からは「広葉樹と針葉樹の違いがわかった。」「葉の裏に縦線が

あるのが針葉樹ということ
がわかった。」「日下川の源
流点が佐川町だと聞いて
びっくりした。」などの感
想がありました。



一月九日、高知県吾川
郡いの町戸中の民有林（高
知県の実証試験地）におい
て現地検討会を、翌日は、
当局二階大会議室において
意見交換会を、高知県、森
林総合研究所、当森林管理
局の合同主催により開催し
ました。

コンテナ苗を活用した再
造林技術については、全
国的に、民国とも喫緊の課

今後も、創意工夫しながら

ら、有意義な森林教室を
行っていききたいと考えてい
ます。

題として、実証研究・試験
に取り組んでいること等か
ら、今回は、四国四県はも
とより、北は長野県、南は
熊本県に至る一都一三県
の国、県、研究機関及び
民間林業関係団体等総勢
一一〇名余りの参加があり
ました。



現地検討会

い、苗別（コンテナ・普通）、
地拵えの有無、植栽時期別
（運搬当日植栽と現地で一
く四週間保管したコンテナ
苗植栽）を組み合わせて八
月に植栽したプロットにつ
いて、高知県から試験内容
の説明を受けました。参加
者は、作業条件や方法等を
確認しつつ、各プロットの
苗木の活着・成長状況等を



ヒノキコンテナ苗

熱心に観察していました。

なお、現地検討会は、地
元民放局の「高知さんさん
テレビ」が取材し、当日夕
方のテレビで報道されまし
た。

翌日の意見交換会では、
当局の田口森林整備部長か
ら「低コスト化に有効な手
段である一貫作業でのコン
テナ苗の活用など喫緊の課

題である林業のトータルコ

スト低減に向けた取組を強
化したい」旨の挨拶があり
ました。

その後、高知県から試験
地の事業実施時のビデオ上
映及び試験調査結果、当局
から低コスト再造林に係る
取組状況、森林総合研究所
から全国の一貫作業システ
ム実施状況等の報告の後、
参加者からは、試験地の苗
木の運搬方法や苗木の現地
での保管状況（保管方法、
気温・雨量等）、現地保管
期間と活着率の相関関係等
について熱心な質疑・意見
が続き、コンテナ苗の活用
による低コスト技術への期
待、関心の高さが伺えまし
た。

事業発注者である国有林
は、コンテナ苗の導入拡大・

普及等に取り組んでいるところですが、全国の各機関の皆さんと直接意見交換をすることで、改めて、民有林との情報共有・連携を強化するとともに、局署（所）をあげて、事業レベルでの低コスト化の実証等を推進し、課題の早期改善・解決に向け貢献していく必要があることを再認識したところです。



一〇月二八日、高知県立四万十高校の一年生自然環境コースの生徒六名と教諭三名を対象に、『通称・西の千本「以下…西の千本」と「四万十川源流点」で森林教室を開催しました。

この森林教室は毎年恒例となっているもので、地元の中学校・高校合同での森林学習ということで計画していますが、今年、各中学校の日程が合わず、四万十高校のみでの実施となりました。

四万十川源流点のある不入山を訪れ、森林生態系の成り立ち及び本来の森の構成を学習するとともに、

四万十川源流点にて



四万十川流域の自然のあり方について考えるきっかけ

を目的として学習している

と呼ばれていることを説明しました。

西の千本（高知県津野町船戸山国有林）では、高知県馬路村魚梁瀬にある天然ヤナセスギ林を「千本山」と言い、それに対して、

木の高さを測る器具、習を体験し、また、大木の幹を生徒達が手を繋ぎ囲んで、その大きさを実感して

この森林学習を通して、私達の生活を支える水を育む森への関心・理解が一層深まったことと考えます。

当地の人工林スギ林でも一〇〇年以上の森に展示林は、植栽後は、大木が育っていること一〇八年経過し、平均樹高は三五m、平均胸高直径は、六〇cmとなっており、ヤナセスギに対し、当森林管理局管内の西部において特に優れた人工林であることから「西の千本」と呼ばれていることを説明しました。

その後、バーテックス（樹木の高さを測る器具）を使って木の高さを測る学習を体験し、また、大木の幹を生徒達が手を繋ぎ囲んで、その大きさを実感して

その後、郷土の森（四国森林管理局と津野町の保存協定林）を通じて、源流点まで行きました。

生徒達は源流点で、四万十川の最初の流れを見て触れて、「源流点の水は冷たくて、とてもきれい。」「水たまりにはサンショウウオがいたのでびっくりした。」と話していました。